

第38回 滝川市民文化祭開催について(報告)

1. 主 催 滝川市・滝川市教育委員会・滝川市文化連盟
2. 主 管 第38回滝川市民文化祭実行委員会
3. 開催目的 滝川市民及び各文化団体による研修研鑽の発表の場として、相互の交流と地域の芸術文化の普及と発展に寄与する。

4. 開催日程及び参加者数

【滝川会場】

	日 時	会 場	参加者数
盆栽	9 / 13(土)～14(日)	滝川市美術自然史館	263名
書道・絵画・写真・手工芸	10 / 25(土)～26(日)	滝川市美術自然史館	454名
エレガンスドール・菊花・文芸・刀剣・陶芸・七宝・押花・公募作品	10 / 25(土)～26(日)	滝川市総合福祉センター	1,200名
華道	10 / 25(土)～26(日)		
茶道(呈茶)	10 / 26(日)		
芸能発表会	10 / 26(日) 10:00～17:00	滝川市文化センター	1,300名

【江部乙会場】

	日 時	会 場	参加者数
盆栽	9 / 7(日)～8(月) 9:00～17:00	滝川市農村環境改善センター	130名
写真・文芸・華道・書道・茶道	11 / 2(日) 10:00～17:00 11 / 3(月) 10:00～14:00	滝川市農村環境改善センター	800名
芸能発表会	11 / 3(月) 13:30～16:00	江部乙公民館	300名

5. 開催による効果

それぞれの文化団体や市民サークル、個人参加者等が、文化祭を一つの目標として完成させた芸術作品や磨いた技を相互に発表することにより、互いに更なる向上心や意欲へとつながり、滝川市の文化向上の基盤になったと思われる。

また、一般市民が参加することにより、参加者同士の交流が図られたとともに、滝川市の文化活動を知る機会となり日々の生活に潤いをもたらす効果があったと考えられる。

6. 今後へ向けての課題

①会場設営

- ・今年度は展示パネルが更新され、会場の雰囲気が明るくなり展示作業もスムーズで大変好評だった。外部からの運搬は、川の科学館からの5枚のみで賄うことができた。
- ・文化センターで、コーヒー・お弁当等の販売出店があり、プログラムにも記載されていて参加者に好評だった。
- ・出展事前申し込みの際に、更新されたパネルのサイズと数量が十分に把握されていない。今年度実際に

使用した記録を次年度の参考としたい。

- ・会場設営当日に各部屋へのパネル枚数と設計図がわかるようにするとともに作業がスムーズになると思われる。

②ポスター・プログラム

- ・江部乙会場のプログラム作成の際に、氏名、時間等、確認はしているがまだ不十分であった。
- ・今年度はプログラムが行き届き、展示会場でも配布できたので良かった。受付で他の会場の問い合わせにも対応できた。

③役割分担

- ・会場使用申請で、昨年度実績と今年度の参加団体数や使用時間を何度も確認する機会があり、実態を把握することができた。また、1時間でも節約しようといった意識がどの会場からも感じられてありがたかった。
- ・連絡体制を明確にすることの大切さを再度確認した。

④開催日程

- ・今年度から滝川会場の開催日程が2日間になり、集客数は美術自然史館でやや減る傾向が見られたが、土曜～日曜で来場者が集中し、にぎわう結果になった。展示終了時間は全体に1時間短縮でも良いと思われる。
- ・次年度は曜日の巡りで、10月31日（土）～11月1日（日）の開催日程としてはどうか。但し、総合福祉センターは11月1日から暖房費がかかるので、予算化が必要。また、美術自然史館ロビーも有料化となるので予算化が必要。

⑤その他

- ・滝川の芸能発表は、プログラム順や子どもの出演などで昨年より全体に来場者の出足が早く、会場が常ににぎわう様子が見られた。
- ・一般公募の出展者が自分で案内状を出すなど、積極的なPRを行い集客につながっていた。
- ・総合福祉センター3階で、手打ちそばの販売があり、安価なこともあって好評だった。
- ・会場費は、もう少し細かな節約が可能と思われる。コンパクトに集中する良さが今年度で見られたので、次年度は会場使用について再度検討したい。